



第40回 日産 童話と絵本のグランプリ

あめがふったら かわい さくら

「きょうも、あめ・・・。」
まどからみえるこうえんは、あめにぬ
れてちよっぴりさみしそう。

のんちゃんのごころもちよっぴりげん
きがありません。

のんちゃんはいもうどのあーちゃんど、
きょうこそは、こうえんへいつてかくれ
んぼをするやくそくをしていたのです
から。

もう、こうなったら、おうちでたのし
いことをみつけるしかありません。

のんちゃんはおもちゃばこをさがし
ました。おにんぎょう、トランプ、お
えかき、どれもピンときません。

「あーきれいなゆびわー！」

おもいだしました。パパがくれたこの
ゆびわは、とおいがいこくのおみやげです。
こんなあめのひでも、きれいな、な
ないろにひかっています。

すると、おひるねからめがさめたあー
ちゃんが、ゆびわをのぞきこんで

「うわあ、きれいだね。」とにつこりし
ていいました。

のんちゃんはいいいことをおもいつき
ました。のんちゃんはいあーちゃんのと

をとって、ろうかへでました。

「あーちゃん、このおおきなのおおきなや
まをのぼって、おひめさまをたすけに
いこう。」

のんちゃんは、かいだんをしたから2か
いを見あげ、そうさげびました。

「やま・・・やまー！」
のんちゃんにつづいて、あーちゃんもの
ぼります。

「よいしょ、よいしょ。」

「きをつけて！がけからおちたらたいへ
ん！」

のんちゃんめをかがやかせて、やまの
てつぺんをみあげます。

とてもきゅうなやまみちです。めの
まえにひろがるのは、ちやいろのいわは
だけ。

ふたりはひたすらうえをむいてのぼり
ます。おどりのまがりかどをこえる
と、てつぺんがみえてきました。あと
すこし、あとすこし。

とうとうやまのてつぺんにつきました。

「あーちゃん、よくやったね！ぶじにの
ぼれるなんてりつぱだったね！」

のんちゃんにほめられて、あーちゃんも

とくいげです。

「つぎは、あのそうげんだー！」

のんちゃんがゆびさすのは、みんなのお
ふとんがたたんである、みどりいろの
たたみのおへやです。ふたりはたたみの
そうげんへかけだしました。

このそうげんには、やわらかいくさ
がたきくさはえていて、ふつかふかです。
ふたりはちいさなおかのうえでころん。

「きもちいいねえ。」

おそとはしとしとあめなのに、めをと
じると、なぜだかこうげんのさわやか
なかげがふいてきます。やわらかいくさ
のいいかおり。

おそらには、ちいさなふんわりくも
がゆつくりながれていきます。

きつとママがおてんぎのひにほしてく
れたたいようのにおいがのこっているの
です。

「さて、あーちゃん。きゆうけいはおわつ
たよ。つぎは・・・。」

のんちゃんは、いつもおふとんがしまつ
てあるおしいれをゆびさしました。

「びっくつにおひめさまをさがしにい
くぞ。」

「おひめさま、どうくつにいるの？」

あーちゃんはとつてもしんぱいそう。だつ
ておしいれは、なにかすんでいそうです
から。ほらたまに、ミシッとおとがす
るでしょう？

「だいじょうぶ。のんちゃんがいるよ。
おひめさまをたすけなくちゃ。」

ゆうかなのんちゃんのがおに、あー
ちゃんもゆうきをもらいました。

ふたりはどうくつへはいつていきます。
あめがふっているきょうは、いつもより
も、うすぐらく、しめつています。

ピチヨンピチヨンとしずくのたれるおと
が、きこえてきます。バサバサとこう
もりでしょうか、ちいさななにかがと
んでいきます。あーちゃんはいのんちゃ
んにくつつきました。

「こわい・・・。」

のんちゃんもとてもこわいです。

「そうだ、ゆうきだまをたべよう！」

のんちゃんはポケットにあめだまが2つ
あつたことをおもいだしました。

「はい、ゆうきだま。たべたらこわくな
くなるよ。」

それはあまいあまいゆうきだまでした。

いちごでもメロンでもラムネでもないふ
しぎなあじで、しぜんとゆうきがわい
てきます。

ふたりはさげびました。

「おひめさま、たすけにきましたー！」
きこえるのはピチヨンピチヨンみずのおと。

「おひめさま、いませんか？」
つぎは「うもりのはほたくおと。」

どうやらおひめさまは、どうくつにと
じこめられていないようです。

「あーちゃん、どうくつにはいないね。
つぎをさがしにいしくかないね。」

「つぎっ。」

「そう、つぎ。つぎは・・・みずうみー！」
のんちゃんをはをボンとならして、あー
ちゃんのをひきました。

いつしかがんぼつてのぼったきゆうな
やまをくだり、そのままいつぽんみち
のはやしをのろかぬけ、ついにおふる
へとうちやく。

「こはまほうのみずうみ。もしかした
ら、まじよにつかまっているかもしれない。」
あーちゃんはびつくりがおで、のんちゃ
んをみました。

「はやくたすけなげや。」

そうです。まじよにつかまっているのなら、はやくたすけなくては。ツタのはっぱのれんをかきわけて、ふたりはみずうみのまえにたちました。

めのまえにひろがるおおきなみずうみ。まわりにはいいかおりのするはながたくさんさいています。バラ、きんもくせい、さくら。きせつのちがうはなもいつしよにさいています。そんなすてきなところにもおひめさまのすがたはみあたりませんでした。

でもそこにはすばらしいであいがありません。みずうみにうかぶアヒルのおやこです。

「たびのおともをしていいですか？」アヒルのおおきさんがききました。これはこころづよい！のんちゃんとおーちゃんはおえをそろえていいました。

「せひー！」すばらしいであいがあつたまほうのみずうみをたて、ふたりと2わのぼうけんはつづきます。

「つぎはここへ！」おひめさまはどこにいるのでしょうか。のんちゃんは、ろうかのはやしのま

んなかでキョロキョロしました。

「あーちゃん、つぎは・・・あーあのもののおくにおひめさまがきつといるよ。」あめでおそとにほせなくなつたせんたくものやまを、じつとみつめ、ゆびさしました。せんたくものにはせんぷうきがあてられています。ママがはやくかわくようにしているのですね。でん

きがけされてまっくらです。キーンとつめたいくうきがながれてきます。ザーというおとがなつていきます。

もりにあらしがくるようです。ザーザーふきすさぶかぜのおとで、こわさがまします。

アヒルのおおきさんがいいました。「ここからは、わたしがせんとうに。」さすがかあさん。ゆうかんです。アヒルのかあさん、アヒルのこども、そしてあーちゃん。のんちゃんはおねえさんですかね。さいごからあーちゃんをまもります。

かぜにふかれたきぎのえだは、のんちゃんとおーちゃんをほほをなで、そのたびにふたりのしんぞうはドキドキとお

ながかつたつゆも、もうすぐおわりです。

とをたてました。

とおくでかみなりがとどろくおとまで聞こえます。

「おひめさま、いませんか？」のんちゃんがゆうきをふりしぼつてさけぶと

「おひめさまー！」あーちゃんもいつしよけんめいさがします。

すると、このおそろしいもりのさきに、ほんのりあたたかいひかりがみえたのでした。

「あつー！」ふたりはさげびます。そうなのです。そこにはあかりのともつたいえがあつたのです。ここに、おひめさまはいるのでしょうか。

のんちゃんはあーちゃんのをとつてくらしいもりをいつきにかけぬけました。

「おひめさまー！」ふたりはいつせいにこえをかけました。

するとそこには、おおきなおなべをぐるぐるまわすママがほほえんでいました。「たすけにきましたよ！」のんちゃんがひびぎまきました。あー

ちゃんもあわててひびぎまきました。

「まあ、たすけにきてくれてありがとう！ママはにっこりしてあたまをなでました。「さぞ、ながたびだったことでしょう。おれいにこのシチューをごちそうしましうね。」

おなべにはしろいゆげのたつたシチューができています。ふたりのだいこうぶつです。ここまでゆうかんにたびをした、ふたりへのごほうびですね。

「おひめさま、まほうのゆびわをどうぞ。」のんちゃんとおーちゃんは、そのゆびわをママにはめてあげました。

「あら、ありがとう。このまほうのゆびわでさいごのしあげを！」おおきなおなべのうえでゆびわをひとまわし。

「おいしくなあれ！」とさんになでとなえました。

まじよのそとにめをやると、ゆうやけにそまつたそらにおおきなじが。それもふたつ！

「きれーい！」のんちゃんとおーちゃんとママはいつしよにさげびました。



かわい さくら

主婦 静岡県

受賞のことば

ママは何になりたい？娘たちは自分の将来の夢を語る時、私にも聞いてくれます。私はその度、童話作家になりたいよと伝えます。そうして幾度も口にした自分の夢を改めて噛み締めるのです。今回頂けた賞は、まだ何かになれると信じてくれる娘や夫の後押しのおかげです。そして私に道しるべの光を与えてくださった審査員の皆様に感謝いたします。

審査員コメント

「このおおきなおおきなやまをのぼって、おひめさまをたすけにこう。」一階段の下から二階を見上げて、のんちゃんがさげびます。これが冒険のはじまりです。数々の楽しい見立てが、雨に降りこめられて、外へ出られない子どもたちを解放していきます。

宮川 健郎